

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K・12一貫教育』を実施しています。「K・12」は「幼稚園(Kindergarten)から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。

小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Division』『IB Division』を設けています。

Primary Division(幼稚部および1～5年)＝幼稚部および小学校1～5年

Secondary Division(6～12年)＝一般クラスの小学校6年～高校3年

IB Division(6～12年)＝IBクラスの小学校6年～高校3年

2024年度 玉川学園学校評価（自己評価結果）

評価標準	2024年度の課題・重点施策	2024年度自己評価	
		2024年度の課題・重点施策に対する達成状況	2025年度の課題と改善方法（2025年度の課題・重点施策）
目的(01): 重要な使命の共有 Purpose (01): Sharing an important mission 標準(0101): 目的 Standard(0101): Purpose 0101-01 学校の統括組織および学校リーダーは、全人教育、学習指導要領とIBの理念と使命、IDEALSに沿って、学習目的を明確化すること。 0101-02 学校の教育的リーダーシップチームは、生徒が能動的で思いやりのある、生涯にわたり学び続ける学習者になることを奨励する教育的アプローチを採用すること。 0101-03 学校のコミュニティーは、「12の教育信条」「IBの学習者像」のすべての人物像を体現する国際的な人材を育成すること。	【学園教学部長】 ●Tamagawa Vision 100をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。(0101-01) ●創立95周年行事にK-12園児児童生徒・教職員が一体となって取り組むことができるよう、学園教学部としてサポート体制を整える。(0101-01,02) ●中長期目標に基づき、K-12教員が参加する研修、及び、研究会を実施する。12の教育信条、及び「玉川っ子」の概念を共有するために、全人教育の理解を深める研修を計画する。(0101-01,02,03)	【学園教学部長】 ●学園教学部が中心となり、各ディビジョンと連携を密に図りながら、全人教育の理念に基づき、K-12一貫教育を推進するよう努めた。定例の学園部長会、K-12協議会に加えて、部長連絡会を年14回開催し、部長間で情報を共有し、K-12の教育活動を展開することができた。(0101-01) ●創立95周年行事に向けて、園児・児童・生徒及び教職員が意識を高めていき、周年行事当日一体となって参加することができ、創立の理念を再確認することができた。(0101-01,02) ●全教職員を対象として、「全人教育論」及び、創立者の著作を読む研修を実施した。(0101-01,02,03)	【学園教学部長】 ●Tamagawa Vision 100をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。(0101-01) ●中長期目標に基づき、K-12教職員が参加する研修、及び、研究会等を実施し、教職員の全人教育の理解度を深め、指導力の向上を図る。(0101-01,02) ●12の教育信条の周知徹底、「玉川っ子」の概念の共有など、各ディビジョンが一体となって生徒指導に当たれるようにサポートする。外国籍教員や本校に在籍経験のない教員等、多様な背景を持つ教員間で建学の理念の共有を図る。(0101-01,02,03)
	【担当部長（幼稚部担当）】 ●より主体的・能動的に学びを得られるような遊びの環境設定、活動のねらい、各行事の在り方などについて部内研修等を継続する。また、コロナ対策のため中止していた「5歳児合宿」の再開実施に向けて計画、準備を進める。(0101-02) ●12の教育信条にある「自然の尊重」「労作教育」「国際教育」に焦点を定め、幼稚部における教育目標や教育活動との整合性について話し合う機会を設ける。(0101-03)	【担当部長（幼稚部担当）】 ●コロナ対策のため数年にわたり中止していた「5歳児合宿」を再開し、園児の成長に繋げることができた。また「幼稚園うんどう会」「こども会」などを通してアクティブラーニングを行い、主体的・協働的な学びを実践した。(0101-02) ●12の教育信条にある「自然の尊重」「労作教育」「国際教育」の3つについて、幼稚部における教育目標や教育活動との整合性を再確認することができた。(0101-03)	【担当部長（幼稚部担当）】 ●より主体的・能動的に学びを得られるような遊びの環境設定、活動のねらい、各行事の在り方などについて部内研修等を継続する。また、年長児アクティブラーニング（5歳児合宿/うんどう会/こども会）のねらい、活動プロセスの改善を図る。(0101-02) ●玉川学園高等部のスクールポリシーを幼稚部においても共有し、それに向けて幼児期に大切にしたい事柄について話し合う場を設ける。(0101-03)
	【教育部長（K-5担当）】 ●Tamagawa Vision 100をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を継続的に展開することを徹底する。(0101-01) ●中長期目標に基づき、自校教育カリキュラム作成に向けて全人教育理解のための計画を立て、実践する。(0101-02)	【教育部長（K-5担当）】 ●全人教育の理念に基づいた教育目標を掲げ、全教員が今年度の重点目標を作成し、教育活動の充実を図った。(0101-01) ●児童一人ひとりが、「きれいな心（徳育）」、「よい頭（知育）」、「つよい体（体育）」の玉川っ子像を明確にし、児童と教師、保護者が三位一体となって指導に当たった。(0101-02)	【教育部長（K-5担当）】 ●Tamagawa Vision 100をもとに設定した中長期目標に従って、創立100周年を見据え、全人教育の理念のもとに教育活動を継続的に展開することを徹底する。(0101-01) ●中長期目標に基づき、自校教育カリキュラム作成に向けて全人教育理解のための計画を見直し、ブラッシュアップを図る。(0101-02)
	【教育部長（6-12担当）】 ●BYODに対応したカリキュラムに関して継続検討をし、EdTechの推進研修から個別最適カリキュラムについて模索する。(0101-01) ●実施した自校教育振り返りから、柔軟なカリキュラムなどを検討し、それに基づき計画的に自校理解を深め、児童・生徒の帰属意識と志を高め、建学の精神の実現を図る。(0101-01,03)	【教育部長（6-12担当）】 ●BYODに対応したカリキュラムに関して、教科毎にカリキュラムについて検討した。それぞれが参加した研修について全体会などで共有することができた。(0101-01) ●学内散策や学内の活動を理解する自校教育を行うことができ、継続的に行えるようカリキュラムを検討することができた。(0101-01,03)	【教育部長（6-12担当）】 ●すべての教育活動において、全人教育の理念に沿った教育活動ができているか確認しながら進める。(0101-01) ●生涯楽しみながら学び続ける学習者になるようなアプローチができるカリキュラムを、教科ごと検討する。(0101-02)

目的 (01) : 重要な使命の共有 Purpose (01) : Sharing an important mission	【教育部長 (IB 担当)】 ● Elicit assistance from the 'Zenjin Education Research Committee' in organizing an English-based 'Zenjin Library' that would be accessible to non-Japanese speakers in all school divisions. (0101-02) 全人教育研究センターの協力を得て、全ディビジョンにおいて外国人が利用できる英語版「全人教育ライブラリー」を組織する。(0101-02) ● Coordinate with the 'Zenjin Education Research Committee' to produce English-based lectures/videos/questions and answer sessions on Zenjin education to non-Japanese speakers in all school divisions. (0101-03) 全人教育研究センター協力のもと、英語による全人教育の講話や動画資料、質疑応答などの機会を設ける。(0101-03)	【教育部長 (IB 担当)】 ● The IB Division has not yet set up contact with the Zenjin Education Research Committee but is committed to doing so with the aim of setting up a Zenjin Library. (0101-02,03) 今年度は全人教育研究センターと計画を具体的に進めることはできなかった。 今後も引き続き「全人教育ライブラリー」開設を目指していく。(0101-02,03)	【教育部長 (IB 担当)】 ● Incorporate Zenjin Education training into Staff Workshops; using both internal and external workshop leaders. Incorporate Zenjin philosophy into the induction process. (0101-02,03) 教員研修に全人教育研修を取り入れる。また、新採用教員のオリエンテーションにも全人教育についての研修を導入する。(0101-02,03) ● To set up a Zenjin Library which is accessible to non-Japanese speakers. (0101-02,03) 外国籍の教員が利用できる英語版「全人教育ライブラリー」を開設する。(0101-02,03)
	【アカデミックサポートセンター長】 ● 部署内の 2 つのセンター (ES センター・マルチメディアリソースセンター) が担当するそれぞれの事業によって、K-12 の園児・児童・生徒が個別最適な学びを通じて個性を発揮し、主体的に活動できるよう事業計画にその内容を盛り込む。(0101-02) ● アカデミックサポートセンターが展開する教育学習支援では、自学自律や労作教育等、12 の教育信条に基づいたプログラムを検討し、園児・児童・生徒が主体的に実践できるよう働きかけをする。(0101-03)	【アカデミックサポートセンター長】 ● ES センターでは学齢に応じた学び方を事業計画に盛り込み、SH 運営の改善を図った。特に 6 年生以上の SH では、ラーニング・コモンズの学習環境を整備するため、SH 教員や委託業者との検討の場を定期的に設けた。(0101-02) ● 学習支援計画を立案した段階で、2 つのセンターが事務局を担当する各委員会において十分に検討し、プログラム実施に向けた準備を行った。(0101-03)	【アカデミックサポートセンター長】 ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期計画を部署内教職員間で共有し、創立 100 周年を見据え全人教育の理念をもとに教育支援活動を展開することを徹底する。(0101-01) ● 部署内の 2 つのセンター (ES センター・マルチメディアリソースセンター) は中長期目標に基づき、学習者の視点に立った個別最適な学びの実現に向け、指導の個別化や学習の個性化に重点を置いた教育プログラムを検討する。(0101-02)
	【国際教育センター副センター長】 ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標数値に向け、K-16 国際教育センター教職員が一体となり、実現に向けた取り組みの検討を継続する。(0101-01) ● 国際教育センターとして、K-16 研修・留学の派遣受入に関する企画立案計画の確認を随時行う。(0101-01) ● K-12 各ディビジョンの国際担当と各研修・留学に関して計画準備等の事前確認とサポートをし、安心安全な研修・留学を行う。(0101-02)	【国際教育センター副センター長】 ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標に向け、K-16 国際教育センター教職員が一体となり、実現に向けた取り組みを進めることができた。(0101-01) ● 玉川大学・玉川学園の共通組織として、月 1 回の定例会の中で、K-16 間で情報を共有、共通課題の検討と対応を進めることができた。(0101-01) ● 交換研修や留学、さらには、滞在生徒学生の対応等を含めて、危機管理体制について情報を共有し、国際交流プログラムのサポートを行うことができた。(0101-01,02)	【国際教育センター副センター長】 ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標に向け、K-16 国際教育センター教職員が一体となり、実現に向けた取り組みの検討を継続する。(0101-01) ● 国際教育センターとして、K-16 研修・留学の派遣受入に関する企画立案計画の確認を随時行う。(0101-01) ● K-12 各ディビジョンの国際担当と各研修・留学に関して計画準備等の事前確認とサポートをし、安心安全な研修・留学を行う。(0101-02)
	【教務委員長】 ● 2024 年度は高等学校新学習指導要領の完成年になるので、K-12 カリキュラムが指導要領に準じているか確認する。(0101-01) ● 個別最適カリキュラムなどの検討ができるよう各教科に促す。必要に応じて、どんな研修が必要かを各教科から聞き取りし検討する。(0101-01)	【教務委員長】 ● 各教科 K-12 のカリキュラムが指導要領に準じているかの確認を行った。(0101-01) ● 個別最適化のカリキュラムについては検討が難しかった。(0101-02)	【教務委員長】 ● 教科横断的な探究学習の機会ができないか各教科検討する。(0101-01) ● 多様な価値観や国際的な視野を育むようなカリキュラムを検討する。(0101-03)
	【生活委員長】 ● 全人教育の理念のもとに、園児児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を推進する場面を増やす企画を立案する。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、園児・児童・生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校づくりを家庭と共に行い、事案が起きた場合の対処対応の研修を行う。(0101-01)	【生活委員長】 ● 全人教育の理念のもとに実施された各行事において、園児児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を進めることができた。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、安全教育教室・いじめ対策防止委員会の開催や、学級・学年単位での指導において園児・児童・生徒が安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校づくりを進めることができた。(0101-01)	【生活委員長】 ● 全人教育の理念のもとに、園児児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を推進する場面を増やす企画を立案する。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針のもとに、園児・児童・生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校づくりを家庭と共に行い、事案が起きた場合の対処対応の研修を行う。(0101-01)

評価規準	2024 年度の課題・重点施策	2024 年度自己評価	
		2024 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2025 年度の課題と改善方法（2025 年度の課題・重点施策）
環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources 規準(0201)：リーダーシップおよび統括体制 Standard(0201)：Leadership and governance 0 2 0 1－0 1 学校は、プログラムの実践と現在行われている教育の改善をサポートするため、学習指導要領およびすべての IB 規則、規定、およびガイドラインを定期的に見直し、遵守すること。 0 2 0 1－0 2 学校の教育的リーダーシップチームには、IB プログラムの実践を成功に導く権限を与えられた IB の訓練を受けたプログラムコーディネーターを含めること。【IB Division のみ】 0 2 0 1－0 3 学校は、幅広くバランスがとれ、関連性の高いカリキュラムを提供し、地域社会の変化するニーズに対応する学習と指導の時間を編成すること。 0 2 0 1－0 4 学校は、K-12 教育課程、IB プログラムの運営と持続可能性を向上させるためのシステムとプロセスを運用し、見直しを行うこと。 0 2 0 1－0 5 学校は、K-12 教育課程と IB プログラムを維持し、さらに発展させるため資金確保とリソースの分配を行うこと。	【学園教学部長】 ● K-12 教育課程の更新計画にのっとり教育課程の更新を進める。新教育課程を土台として、各ディビジョンのカリキュラムを整備していく。(0201-01) ● K-12 収支均衡を目指して、各ディビジョンの具体的な改革プランを検討し、収支改善をめざして教育プログラムを展開する。K-12 全体のバランスをとりながら、予算配分、施設設備等の改修等の計画を立てる。(0201-04,05) ● オンライン授業の環境整備、ICT 教育機器の導入、教務校務業務の ICT サポートなど、K-12 教育活動が円滑に進められるよう、法人部門と連携し進める。(0202-01,0203-01,02,03)	【学園教学部長】 ● 玉川学園 K-12 教育課程に則り、教育活動を推進することができた。次期学習指導要領改訂を見据え、本学のカリキュラムの見直しを継続実施していく。(0201-01) ● 部長連絡会、管理職研修等を通して、各ディビジョンの魅力あるプログラムについて検討を進めている。創立 100 周年に向けて、さらに検討を継続する。(0201-04,05) ● 厳しい財政状況ではあるが、各ディビジョン間で調整を行い、必要な教育機器等の導入や、ICT 環境整備を進めた。K-12 の収支状況を共有し、予算計画、施設設備計画等を進めることができた。(0201-05)	【学園教学部長】 ● 次期学習指導要領改定を見据え、玉川学園 K-12 教育課程の更新計画を進め、魅力あるカリキュラムの構築を図る。(0201-01) ● K-12 の収支の安定を目指し、具体的な改革プランを継続検討する。K-12 全体のバランスをとりながら、予算配分、施設設備計画を立てる。(0201-04,05) ● BYOD、オンライン授業等の環境整備、教務校務等の ICT サポートなど、K-12 の教育活動が円滑に進められるように、法人部門と連携してサポート体制を整える。(0201-05)
	【担当部長（幼稚部担当）】 ● ①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新を継続する。また、K-12 学内研修会における幼稚部授業公開に向けて、配布用資料等の作成を行う。(0201-01) ● 英語カリキュラム、シラバス、ポートフォリオ等の作成・更新を継続する。また、教員研修については、1 学期末に全体研修を計画するとともに教員各自の自発的な研修参加を促す。(0202-05,0203-03)	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 週ごとに活動内容や環境設定を計画し振り返りを行う「週日案」をもとに、年間を通じ個々の成長を促進するための環境づくりを継続した。また各期（年間 8 期）の終わりにミーティングの場を設け、各学年・クラスの状況について情報共有を行った。さらに、今年度は K-12 学内研修会における授業公開にともない、教育活動の見直しや他ディビジョンとの意見交換を行った。(0201-01) ● 正課の教育カリキュラム、英語カリキュラムについて、随時更新を行った。また、7 月末に表現教育をテーマに部内で教員研修を実施した。保育に関する研修に自発的に参加する教員も多数あった。(0202-05,0203-03)	【担当部長（幼稚部担当）】 ● ①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新を継続する。また、K-16 連携活動（音楽劇鑑賞会/カブトムシ勉強会/農作物収穫）を継続しつつ、新たな活動の可能性を探る。(0201-01) ● 英語カリキュラム、保育カリキュラム、ポートフォリオ等の作成・更新を継続する。また、Primary Division(1-5)との授業連携を視野に入れ、幼稚部教員が授業見学を行うなどして教員同士の交流を図る。(0202-05,0203-03)
	【教育部長（K-5 担当）】 ● 感染症の拡大防止のためにオンライン授業への切り替えをスムーズに実践し、教職員が感染した場合などを想定し、迅速に対応できた。(0201-01) ● 教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の一層の充実を図り、Bilingual プログラムの推進を継続化する。(0201-02) ● Secondary Division および IB Division との英語科研修会を計画的に実施し、相互に学習内容を把握し、連携を図りながら英語教育を充実させていく。(0201-04) ● SH の利用率の向上を目指し、個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。(0202-01) ● 日課の検討を含め、BSH の時間の運用、活用を再度見直し、教育効果を上げる有効的な利用を探っていく。(0202-02) ● 次年度は新任教員が多くなることから、教務主任を中心に新任教員研修の充実を図っていく。(0203-01) ● 日本人、外国籍教員ともに授業研究を実施し、授業力向上を今後も継続的に図っていく。(0203-01) ● 各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りをする。今後も継続的に宿泊行事、入試業務等にも BLES 専任教諭を中心に外国籍教員を積極的に参加させ、チームで指導に当たる体制を作る。(0203-03)	【教育部長（K-5 担当）】 ● 今年度は、対面授業を基本として展開したが、教職員が感染した場合に備え、教科部会を中心に授業の代行体制を整備することができた。また、オンライン授業の評価の付け方に関しても教務主任を中心とし教科毎で明確化を図ることができた。(0201-01) ● 教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、児童に無理のない英語力の習得を見越して、JP、EP 両クラスのカリキュラムの見直しを図ることができた。(0201-02) ● Secondary Division 、IB Division との英語科主任を通じた連携は、昨年度より定期的に回数を重ねることができ、相互の学習内容の把握に繋げることができた。(0201-04) ● Primary Division の教諭が積極的に指導に当たったことで、SH の個別教材が一層充実し、児童の取り組みも充実した。(0202-01) ● BSH の時間の運用、活用に関しては、再度見直す段階にきている。1 コマ 40 分授業を視野に入れた日課の見直しを含め、目黒区の実践を視察し、今後もその時間の有効的な利用を模索していく。(0202-02) ● 研修担当を中心に、相互の授業を見合う機会を積極的に取り入れ、授業力向上を図ることができた（19 回実施）。また、外国籍教員に関しては、教務主任を中心にしたメンター教員(K-5BLES 担当) による外国人全教員の授業点検を年間 2 回ずつ実施した。(0203-01) ● BLES の外国籍教員が新たに 2 名専任教諭となったことで各会議資料及び業務連絡の英語化により一層スムーズになり、共通意識を持った指導体制は構築され、充実している。宿泊行事（3、4 年林間学校、5 年スキー学校）に関しても、日本人と外国籍教員の協力のもと安全かつ円滑に実施することができた。(0203-03)	【教育部長（K-5 担当）】 ● 教科部会毎で学習指導要領に則った指導がなされているか、定期的に見直しを図り、感染症の拡大防止のためにオンライン授業への切り替えをスムーズに実践し、教職員が感染した場合などを想定し、今後も迅速対応できる体制を維持する。(0201-01) ● 教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の一層の充実を図り、Bilingual プログラムの推進を継続化する。(0201-02) ● Secondary Division および IB Division との英語科研修会を計画的に実施し、相互に学習内容を把握し、連携を図りながら英語教育を充実させていく。(0201-04) ● SH の利用率の向上を目指し、個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。(0202-01) ● 日課の検討を含め、BSH の時間の運用、活用を再度見直し、JP クラスの新たな魅力ある学習の展開及び教育効果を上げる有効的な利用を探っていく。(0202-02) ● 次年度も新任教員が多いことから、教務主任を中心に新任教員研修の充実を図っていく。(0203-01) ● 日本人、外国籍教員ともに授業研究を実施し、授業力向上を今後も継続的に図っていく。(0203-01) ● 各会議資料および業務連絡の英文化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りをする。今後も継続的に宿泊行事、入試業務等にも BLES 専任教諭を中心に外国籍教員を積極的に参加させ、チームで指導に当たる体制を作る。(0203-03)
	【教育部長（6-12 担当）】 ● 2024 年度は高等学校新学習指導要領の完成年度であるので、教育課程の再確認を行う。(0201-01) ● Primary Division との英語科研修会を実施し充実させていく。(0201-04) ● 引き継ぎ、ICT 活用授業について各教科検討を続ける。(0203-02,03)	【教育部長（6-12 担当）】 ● K-12 教科会として教育課程の確認を行うことができた。(0201-01) ● Primary Division との英語科研修会に関しては十分行うことができなかった。(0201-04) ● ICT 活用授業について各教科検討することができた。それにともない PC の推奨機種の変更に至った。(0203-02,03)	【教育部長（6-12 担当）】 ● 各教科、2 年間かけて K-12 教育課程の改定を行う。(0201-01,04) ● 社会変化に対応するカリキュラムの検討を行う。(0201-03) ● 引き継ぎ、ICT 活用授業及び AI 利活用について各教科検討を続ける。(0203-02,03)

規準(0202)：生徒のサポート Standard(0202)：Student support 0202-01 学校は、プログラムの実施に関わる人材、自然資源、設備、およびバーチャル環境におけるリソースを提供すること。 0202-02 学校は、生徒への適切な学習サポートの必要性を確認し提供すること。 0202-03 学校は、生徒と教師の社会的および心身の健全性、感情的、肉体的な幸福を促進すること。 0202-04 学校は、生徒がプログラムで成功し、次の段階についての計画を手助けするキャリアガイダンスとサポートを提供すること。 0202-05 学校は、プログラムの実施を強化する知恵と専門知識を得るために、より広いコミュニティとの関係を構築すること。【K-16 連携等】 規準(0203)：教師のサポート Standard(0203)：Teacher support 0203-01 学校は、教師が最新のリソースを使用し、プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること。 0203-02 学校は、学校リーダーシップメンバーと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること。 0203-03 学校は、プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること。	【教育部長（IB 担当）】 ● Promote further curricular exchanges, initiatives and activities with IB and Round Square partner schools to facilitate more frequent communication and understanding between students of different languages and cultural backgrounds. (0201-03,0202-01) IB やラウンドスクエアの提携校との一層の教科交流やアクティビティなどの交流機会を推進し、異なる言語的、文化的背景を持つ児童・生徒同士が理解し合えるようにコミュニケーションをとる機会をより頻繁に行う。(0201-03,0202-01) ● Reach out to other Divisions' leadership and staff to increase the number and scope of IB DP CAS and MYP Service opportunities. Strengthen ties with Tamagawa University through a joint IB Action Research initiative. (0203-01) IB の DP における CAS と MYP における Service as Action の活動の幅を広げるために、学内外でできる情報収集を他ディビジョンの管理職や先生方に伺いながら、集めたリソースをディビジョン内で共有する。大学院教育学研究科との共同 IB アクションリサーチを通じた連携強化を行なう。(0203-01) ● Integrate RAZ-Kids across the Division as a means to track and enhance students' reading progress. Their results will be used to advise teachers on differentiation Approaches to Teaching strategies across the curriculum. (0201-04,0203-01,03) 生徒のリーディングの上達を追跡し、向上させる手段としてディビジョン全体に RAZ-Kids を取り入れる。RAZ-Kids にて収集されるデータはカリキュラム全体にわたる指導の差別化の方法について教員にアドバイスを与えるために使用する。(0201-04,0203-01,03) ● Support students' social and emotional health through the creation of a curriculum programme to run through IB Core classes and Homeroom periods. We will also make stronger links with different stakeholders within the school such as the nurse and counsellors with the aim of adding them to the programme. (0202-03) IB Core の授業とホームルームの時間を通して実施するカリキュラムを作成し、生徒の社会的・情緒的な健康のサポートを組み込む。また、養護教諭やカウンセラーなど学内のさまざまな関係者との連携を強化することを目指す。(0202-03)	【教育部長（IB 担当）】 ● The IB Division has continued to send students on exchange and to accept students from around the world. The IB Division has made progress in including visiting students in its events, including presentations at IB Assemblies and International Day. The IB has made connections with other IB schools in Japan and makes yearly Personal Project visits. Oliver Furnival has become the co-chair of the Heads Network with the aim to create inter-school opportunities. The IB holds an MUN Conference at Tamagawa and visits local and national conferences. (0201-03,0202-01) IB Division は引き続き留学生の派遣および世界中からの生徒の受け入れを行った。また、IB アセンブリー（集会）やインターナショナルデーでのプレゼンテーションなどのイベントにて留学生に発表させた。さらに、日本国内の他の IB 校と連携し、パーソナルプロジェクトの展示会の訪問を毎年実施した。教育部長（IB 担当）は、学校間の交流機会を創出することを目的とした IB 校校長ネットワークの共同議長となった。さらに、玉川学園で MUN（模擬国連）を開催したほか、地域および全国規模の会議にも積極的に参加している。(0201-03,0202-01) ● The IB, and Primary Division (K-5) have made good progress in setting up Service as Action activities which has seen IB students run classes for Grade 5 and make accessories for students in grade 1. (0203-01) IB Division と Primary Division (K-5)は、Service as Action（奉仕活動）の活動を立ち上げ、成果をあげた。その活動においては、IB の生徒が 5 年生の授業を訪問したほか、1 年生の児童向けにアクセサリーを制作した。(0203-01) ● The IB has integrated Raz-Kids across the Division. The EAL Coordinator shares the findings with the staff in order to help them plan their lessons. Student success is celebrated in assemblies. (0201-04,0203-01,03) IB Division 全体で Raz-Kids（オンライン型図書システム）を導入し、EAL コーディネーターがその成果を教職員と共有し、授業計画に役立てた。生徒の成果は集会において表彰した。(0201-04,0203-01,03) ● The IB Core Curriculum was adapted to include lessons where students consider their social and emotional wellbeing, as well as other people's. The IB Division have created better links with the school counsellors which has resulted in them visiting lessons. Student wellbeing advice has been updated for IB students and parents. (0202-03) IB Core のカリキュラムは、生徒が自分自身および他者の社会的・情緒的な健康について考える内容を含むように改訂した。また、スクールカウンセラーとの連携を強化し、カウンセラーが授業に協力してくれるようになった。さらに、児童生徒の心身の健康に関するアドバイスが、IB の児童生徒および保護者向けに見直された。(0202-03)	【教育部長（IB 担当）】 ● Widen the opportunity for cultural exchanges with International Schools in Japan through the MYP and DP and Heads Networks. Look for opportunities of online education exchange opportunities with schools around the world, including schools that our staff used to work at. Raise the profile of the new Mandarin Ab initio course through Jiyukenkyu, the Personal Project and Community Project. (0202-05,0203-02,03) MYP・DP コーディネーターおよび IB 校校長ネットワークを通じて、国内のインターナショナルスクールとの交流の機会を広げる。また、教員が以前勤務していた学校を含め、世界中の学校とオンラインで教育に関する交流ができる機会を模索する。自由研究、パーソナルプロジェクト、コミュニティプロジェクトを通じて、新しい中国語初級（Ab initio）コースの認知度を高める。(0202-05,0203-02,03)
---	--	--	---

環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources	【アカデミックサポートセンター長】 ● 次年度に 6 年生以上を対象とした BYOD の完成年度を迎える。 K-12 プロジェクト委員会において振り返り、ICT の授業利活用の推進を目指した児童・生徒・教員へのサポート体制を検討する。また、1～5 年生への ICT 導入については、ICT 利活用計画の基本方針に沿って経塚校舎内の Wi-Fi 環境について委員会等で検討する (0202-02,0203-03) ● 園児対象の SH 朝預かりの運用開始に際し、各家庭の利用状況を把握し、玉川教育に則した事業であることを確認しながら展開する。(0201-01)	【アカデミックサポートセンター長】 ● 2024 年度に 6～12 年生で BYOD の完成年度を迎えた。ICT 教育推進委員会では 4 年間の振り返りを行った。現状における課題抽出から解決策を検討し、BYOD に相応しい PC スペックを設定した。今後は各教科での ICT 利活用状況を示すマスタープランの作成に取り組む。(0202-02,0203-03) ● 幼稚部では SH 朝預かりを 4 月より開始した。定期的に利用状況を幼稚部と共有することで円滑な運用ができた。また、朝預かり専門の SH 教員を配置することで幼稚部教職員の新たな業務負担に配慮することができた。(0201-01)	【アカデミックサポートセンター長】 ● 1～5 年生の ICT 導入は、ICT の利活用に関する基本計画に沿って ICT 教育推進委員会等で引き続き検討する。また、K-12 全体の ICT 活用教育マスタープランの完成を目指す。(0201-05,0203-03) ● 読書教育をキーワードに玉川大学との K-16 教育連携を図り、園児・児童・生徒の読書活動を活発にする企画を提供する。(0202-02) ● ラーニング・コモンズ内で実施する学習イベントを教員と共有する機会を増やすことで、ES センターとディビジョンが協働し、効果的に運営できるようプログラムを構築する。(0203-03)
	【国際教育センター副センター長】 ● K-16 海外交流校の派遣受入の交流プログラムにおいて、既存プログラムと新規プログラムを安全安心に運用する企画立案計画の情報交換と共有を随時行う。(0203-02) ● K-12 交流プログラム受入に、安定したホストファミリーおよび学内ホストの確保に向けた検討を継続する。(0203-02) ● 国際教育センターとして学内宿泊施設（梁山塾・桔梗塾）の住居環境の改善と、中長期に向けた宿泊施設に関する検討を関係部署と進める。(0203-02)	【国際教育センター副センター長】 ● 新規プログラムとして、5 年生オーストラリア研修、RS 校とのエクスチェンジプログラムが実施された。その実施に向けてディビジョンのサポートを行った。新プログラムは充実したものとなった。(0203-01,02,03) ● ホストファミリーの募集に際して、対象学年の幅を広げることによって、応募数が増えた。異年齢の子どもの受け入れが進んだ。(0203-02) ● 総務部と検討を行ったが、現状の改善には至っていない(0203-02)	【国際教育センター副センター長】 ● K-16 海外交流校の派遣受入の交流プログラムにおいて、既存プログラムと新規プログラムを安全安心に運用する企画立案計画の情報交換と共有を随時行う。(0203-01,02,03) ● K-12 交流プログラム受入に、安定したホストファミリーおよび学内ホストの確保に向けた検討を継続する。(0203-02) ● 受け入れのための学内施設の住環境の改善や、学外宿泊施設の利用など、検討を継続する。(0203-02)
	【教務委員長】 ● 各教科に必要な研修など、東京私立中学高等学校協会の研修や私学協会の研修や独立行政法人教職員支援機構の研修など積極的に推進する。(0203-01) ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築できたが、今後も課題、改善点などを探り、一層の充実を図る。(0202-05,0203-03)	【教務委員長】 ● 各教科に必要な研修など、東京私立中学高等学校協会の研修や私学協会の研修や独立行政法人教職員支援機構の研修など会議やチャットを通して広報し、積極的に推進することができた。(0203-01) ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークが構築され、適切に運用されている。(0202-05,0203-03)	【教務委員長】 ● Google チャットのスペースや Siems などを利用し、東京私立中学高等学校協会の研修や私学協会の研修などを広報し、最低 1 回は研修に参加するよう推進する。また、研修内容を共有する場を設ける。(0203-01,02) ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築できたが、今後も改善点などを探り、一層の充実を図る。(0202-05,0203-03)
	【生活委員長】 ● 児童・生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと児童・生徒、教員、家庭との情報を共有しながら、安心な体制と環境の提供を継続する。(0202-03) ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する。(0203-03)	【生活委員長】 ● 学級単位でのスクールカウンセラーによるワークショップを実施するなど、児童・生徒の心のケアをサポートするために、教職員教員と家庭間での情報を共有しながら、安心・安全な環境の維持に努めた。(0202-03) ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、カウンセリングや管理職による相談を含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続できた。(0203-03)	【生活委員長】 ● 児童・生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと児童・生徒、教員、家庭との情報を共有しながら、安心な体制と環境の提供を継続する。(0202-03) ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する。(0203-03)
	【管理運営部門（人事部）】 ● 人材確保においては、引き続き、収支改善に向けた人件費の適正化が課題である。人件費や採用数の目標数値などを具体的に学園教学部に提示するなど、中長期の教育活動も踏まえて検討したい。(0201-05,0202-01) ● 引き続き、教職員の柔軟な働き方について検証する。特に、健康障害の防止を重点に健全な職場環境の整備に取り組む。(0202-03,0203-03) ● 階層ごとに求められる役割・立場を理解するベーシック研修や、全人教育研修、教職員の ICT リテラシー向上に関する研修、ハラスメントやメンタルヘルスなどのテーマ別研修を実施したい。(0203-02)	【管理運営部門（人事部）】 ● 採用数を抑制しつつ人材確保に努めている。人員抑制の効果から実質人件費は横ばいであるものの、令和 2 年度来、人件費比率は目標値 50%～55%の上限を超えており、本年度も同様の見込みとなっている。(0201-05,0202-01) ● 安全衛生委員会と連携した継続的な就労環境、職場環境の改善に取り組んだ。健康障害の防止では、厚生労働省がメンタルヘルス指針において示している「4 つのケア」のうち「セルフケア」と「ラインによるケア」に関する健康セミナーを実施した。また、教職員の運動習慣定着のきっかけとなるよう「玉川体操（朝会体操）」を実施した。(0202-03,0203-03) ● 事務職員を対象とした階層別研修と教職員を対象としたテーマ別研修について、概ね予定どおり実施した。テーマ別研修では、創立 100 周年に向け、あらためて「全人教育」に関する正しい知識を身に付け、また、創立者小原國芳の生涯を学び、教職員が「全人教育」をどのように捉え、実践できるかを考える機会とすることを目的に、全人教育研修を実施した。(0203-02)	【管理運営部門（人事部）】 ● 経営基盤の安定のために人事部として第一に取り組まなければならないのは、人材の確保と人件費比率の目標値達成である。しかし、昨今の社会情勢から人材の獲得競争や給与のベースアップなど課題は増えており、今後の方針について学園教学部や経理部など関係各部署との調整が必要である。(0201-05,0202-01) ● 引き続き、安全衛生委員会と連携し教職員の柔軟な働き方について検討する。特に、健康障害の防止を重点に健全な職場環境の整備に取り組む。(0202-03,0203-03) ● 引き続き、階層別研修とテーマ別研修を計画・実施していく。日々の業務を抱えながらの研修はどうしても二の次になりやすく参加率向上が課題である。プログラム内容を充実させたりオンラインでの受講機会を増やしたり、研修に参加するように環境を整備する。(0203-02)

環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources	【管理運営部門（経理部）】 ●収容定員未充足状況の中、近年社会問題となっている少子化に、コロナ禍以降の著しい出生率の低下が近い将来大きな影響及ぼす可能性が高い。また、物価上昇も続いていることから、定員充足と合わせ収支改善に向けた取り組みが課題である。(0201-05) ●令和 5 年度決算に係る収支分析結果を学園部長会へ報告する他、収支改善に向けた教職員構成について関係部署との調整を行う。(0201-05)	【管理運営部門（経理部）】 ●K-12 全体の令和 5 年度収容定員充足率は 0.84 で令和 3 年度以降同率となっているが、入学定員充足率は 0.80 で前期に対して 0.05 ポイント低下した。収支状況については、前年度に続いて、依然厳しい状況が続いており、収支構成上収入に占める人件費の割合が K-12 全体で非常に高い状況である。物件費についての予算調整等は、物価上昇が続いていることから未実施である。(0201-05) ●令和 5 年度の収支分析結果の学園部長会への報告を継続して実施し、園児・児童・生徒の確保および教員数の標準教員数への段階的な調整等の取り組みが課題であることを共有した。なお、教職員構成についての調整は学園部長会での収支分析報告に留まったが、教員採用において現状が考慮されている。(0201-05)	【管理運営部門（経理部）】 ●収支改善に関して、収入面は主要な財源である納付金収入を確保するため園児・児童・生徒数の増加が欠かせず、出生率の低下が続く厳しい状況の中、定員充足を目指す方策の検討が必要。また、支出面では、物価上昇が続くことが予想されているが、支出に関しての調整（業務の合理化等による節減の啓蒙、予算調整、等）を引き続き検討したい。(0201-05) ●令和 6 年度決算の収支分析結果を、引き続き学園部長会へ報告する他、実施が滞っている収支改善に向けた教職員構成についての調整を関係部署と行う。(0201-05)
	【管理運営部門（総務部）】 ●包括連携を結んでいる自治体が、2023 年 11 月に新たに 1 つ加わり 8 つの自治体となった。これら 8 つの自治体との関係性を深め、児童・生徒が地域社会において学習できる機会を提供する。(0201-03) ●Campus Master Plan に基づき、自然資源を有効活用した施設設備の提供を図る。(0202-01) ●引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修の中長期計画立案を行う。(0202-01) ●SDGs や Society5.0 に加えサーキュラーエコノミーを視野に入れた Campus Master Plan の立案。(0202-01)	【管理運営部門（総務部）】 ●包括連携を結んでいる南さつま市へ K-12 の生徒 17 名が訪問し、地元の児童・生徒及び地元住民との交流を実施した。(0201-03) ●Tamagawa Mokurin Project により、間伐材を Tamagawa Wood Seasoning Station (TWSS) の木材低温乾燥装置を利用して乾燥させて教材として活用。また、建物の建材としての利用計画中(0202-01) ●施設中長期計画（新築・改修・解体）の財政見直しによる実施予算の提出(0202-01) ●財政見直しにより規模縮小となった、Student COMMONS は ZEB Ready を視野に入れた設計としている。(0202-01)	【管理運営部門（総務部）】 ●包括連携を結んでいる自治体との関係性を深め、児童・生徒が地位社会において学習できる自治体を 1 つ以上新たに提供する。(0201-03) ●Campus Master Plan に基づき、自然資源を有効活用した施設設備の提供を図る。(0202-01) ●引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修の中長期計画立案を行う。(0202-01) ●SDGs や Society5.0 に加えサーキュラーエコノミーを視野に入れた Campus Master Plan の立案。(0202-01)

評価規準	2024 年度の課題・重点施策	2024 年度自己評価	
		2024 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2025 年度の課題と改善方法（2025 年度の課題・重点施策）
文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures 規準(0301) : 方針の実践を通じた文化 Standard(0301) : Culture through policy implementation 0 3 0 1－0 1 学校は、可能な限り多様な生徒が教育にアクセスできるようにすること。 0 3 0 1－0 2 学校は、すべての生徒が最大の可能性を発揮することをサポートする文化を創造するために、多様性を受け入れるインクルーシブな方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。 0 3 0 1－0 3 学校は、学問の清廉性を保つために必要な学問的誠実性についての方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。 0 3 0 1－0 4 学校は、複数の言語でさまざまな方法のコミュニケーションを行い、多様な文化の理解を育成するのに役立つ言語方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。 0 3 0 1－0 5 学校は、生涯学習と継続的な成長を目指す学校文化の創造につながる評価方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。 0 3 0 1－0 6 学校は、教育理念および IB が定めた方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行い、それらが一貫性をもち、全人教育および IB の理念を反映したものかを確認すること。	【学園教学部長】 ●オンライン入試、及びオンラインガイダンスを積極的に取り入れ、より玉川学園を受験しやすい環境作りを行う。また国内入試のあり方も見直し、より多くの受験生を確保できる方策を探る。(0301-01) ●K-12 全体でバイリンガルの環境作りを継続して行う。日本語サポートプログラムの実施をめざして、必要なサポート体制を整える。(0301-04) ●園児・児童・生徒の満足度 UP、及び志願者増を目指し、玉川の強みを生かした新たなプログラムの開発を各ディビジョンと連携して行う。(0301-01)	【学園教学部長】 ●オンライン入試、及びオンラインガイダンスの実施が定着した。学校説明会も対面とオンラインの併用で効果的に実施することができた。(0301-01) ●各ディビジョンにおいて、バイリンガル環境は充実してきている。今後は、母語である日本語力のさらなる向上に向けての方策を探っていく。(0301-04) ●管理職研修、中堅者研修などを通して、魅力ある新たなプログラムの創出や、従来からある玉川の強みに焦点を当てる方策などを検討中である。(0301-01)	【学園教学部長】 ●オンライン入試、及びオンラインガイダンスを積極的に取り入れ、より玉川学園を受験しやすい環境作りを行う。また国内入試のあり方も見直し、より多くの受験生を確保できる方策を探る。(0301-01) ●K-12 全体でバイリンガルの環境作りを継続して行う。母語である日本語力の向上、及び日本文化体験プログラムの充実を図る。日本語サポートプログラムの実施。(0301-04) ●園児・児童・生徒の満足度 UP、及び志願者増を目指し、玉川の強みを生かした新たなプログラムの開発を各ディビジョンと連携して行う。(0301-01)
	【担当部長（幼稚部担当）】 ●入試広報および説明会、学校見学等については、今後もオンラインと対面のハイブリッドで継続する。海外帰国者等の受け入れについては、ローリング入試（オンライン対応含む）を軸として継続していく。*2024 年度より 9 月転編入試験廃止（0301-01) ●学園ホームページを見直し、幼稚部サイトの更新を行う。（写真、Q & A など）(0301-01) ●海外校との交流活動を可能な範囲で実施する。また、日本ならではの年中行事に関して、年間の活動内容を整理する。(0301-04)	【担当部長（幼稚部担当）】 ●第 1 回学校説明会（5 月）、入試相談会（5～6 月）、第 2 回学校説明会（9 月）をオンラインで実施。プレキンダー体験教室（5～6 月）、個別見学会（5～6 月・9 月）を対面で実施した。また、海外在住者との入試相談をオンラインで行い、ローリング入試に繋げることができた。(0301-01) ●学園ホームページ記載の Q & A（幼稚部）について、更新作業を行った。(0301-01) ●今年度は海外校との交流活動等は実施できなかった。(0301-04)	【担当部長（幼稚部担当）】 ●入試広報および説明会、相談会、学校見学等については、今後もオンラインと対面のハイブリッドで継続する。海外帰国者等の受け入れについては、ローリング入試（オンライン対応含む）を軸として継続していく。さらに、学外での広報活動を強化し、新たなステークホルダーの獲得を目指す。(0301-01) ●広報課と連携して、学園ホームページの見直しと更新を継続する。また、広報用パンフレットの写真の更新に活かせるよう、ファイルサーバの記録写真を随時整理していく。(0301-01)
	【教育部長（K-5 担当）】 ●オンラインによる学校説明会を通じ広く案内すると同時に、実際に来校いただく学校見学会、校舎見学会を充実させ、志願者増に繋げる。(0301-01) ●北海道 ES サマーキャンプの充実とともに、鹿児島久志農場でのキャンプ実施に向けて新たな企画を立案し実現を目指す。(0301-01) ●5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムをスタートする年とし、新たな国際交流の場を広げていく。(0301-04) ●1～5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05)	【教育部長（K-5 担当）】 ●オンラインによる学校説明会、個別入試相談会に加えて、実際に来校いただく学校見学会を実施し、志願者に広く、また深く学校を理解していただく機会を十分に設定することができた。(0301-01) ●北海道 ES サマーキャンプの充実を図ることができたと共に、鹿児島久志農場でのキャンプ実施に向けて下見を行い、具体的な企画、立案の段階に入ることができた。(0301-01) ●5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムを本年度よりスタートすることができ、貴重な体験となり、今後もさらなる交流活動の発展に繋がるよう取り組む。(0301-04) ●1～5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化（教材の準備等を含め）を図ることができ、1、2 年生の利用率がおよそ 7 割に達した。(0301-05)	【教育部長（K-5 担当）】 ●オンラインによる学校説明会を通じ広く案内すると同時に、実際に来校いただく学校見学会を充実させ、志願者増に繋げる。また、幼児教室及び近隣幼稚園での講演会の機会を増やしていく。(0301-01) ●北海道 ES サマーキャンプの充実とともに、鹿児島久志農場でのキャンプ実施に向けて令和 7 年度より実現を目指す。(0301-01) ●今年度の 5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムの反省を生かし、令和 7 年度の国際交流の充実を図る。(0301-04) ●1～5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05)

文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures	【教育部長 (6-12 担当)】 ●引き続き BYOD に対応したカリキュラムの検討を続ける。(0301-01) ●時期や内容によって、オンラインによる学校説明会を実施し、志願者増に繋げる。(0301-01) ●清廉性を保つために、各教科評価方法の再確認を行う。(0301-03) ●現在行っている研修の内容を再確認し、更に、受け入れや研修発表会などによる国際理解教育を推進する。(0301-04)	【教育部長 (6-12 担当)】 ●BYOD に対応したカリキュラムの検討を行った。(0301-01) ●時期や内容を検討し、オンラインによる学校説明会を実施することができた。(0301-01) ●各教科評価方法について検討を続けた。(0301-03) ●現在行っている研修の内容を確認した結果、研修内容の変更を計画することができた。(0301-04)	【教育部長 (6-12 担当)】 ●入試広報において、学園入試広報課と連携して戦略を検討する。(0301-01) ●学校説明会、学校見学等について、時期、回数、方法など有識者の意見を伺いながら検討を続ける。(0301-01) ●引き続き BYOD に対応したカリキュラムの検討を続ける。(0301-01) ●海外研修の内容変更にともなった検証を行い、更に次年度につながる研修内容を検討する。(0301-04)
	【教育部長 (IB 担当)】 ●Collaborate upon and develop MYP action Programme Development Plans based on an internal self-study of International Baccalaureate's Standards and Practices and the recommendations from the International Baccalareate via the Evaluation Report paying special attention to the social and emotional needs of our students. (0301-02) 評価訪問に向け行なった、IB の原則から実践への内部自己評価に基づき作成した MYP のプログラム開発計画、および国際バカロレア機構の評価訪問の際の推奨事項における特に児童・生徒への社会的・情緒的ニーズに応えられるよう協同する。(0301-02) ●Continue and increase the sharing of information between the IB Division and especially the Primary Division's EP program, in order to better serve all shareholders involved in the transition from EP to IB. Consider setting up a regular meeting where leaders and teachers of both Divisions can meet to exchange information and recommendations. (0301-06) EP クラスから IB クラスへの移行に関わる児童、保護者、教職員などの関係者のために、IB Division と Primary Division(EP クラス)との情報共有を継続し、さらに拡張させる。両ディビジョンの管理職や教員たちが集まり、情報や提案を共有できる定期的な会議の設置を検討する。(0301-06) ●Increase the relationship with Tamagawa University Graduate School of Education through Action Research based on teachers' professional development needs. (0301-05) 教員研修のニーズに基づいたアクションリサーチを通じて、玉川大学大学院との関係をより一層深める。(0301-05)	【教育部長 (IB 担当)】 ●The MYP Coordinator, DP Coordinator, Director of Teaching and Learning and Head of Division have worked together to create a Programme Development Plan focusing on Inquiry Based Learning. This initiative will be linked to the teacher's Professional Development Goals and next year's learning walks. (0301-02) MYP と DP 両コーディネーター、教務主任 (Director of Teaching and Learning)、および教育部長 (IB 担当) が協力して、探究型学習に焦点を当てたプログラム開発計画を作成した。この取り組みは、教員の専門能力開発目標および来年度の授業観察 (ラーニングウォーク) とのつながりを持つものである。(0301-02) ●The IB Division has created a “Transition Leader” position with the aim of building better links with the EP Division, including meeting her counterpart on numerous occasions.. The Head of IB Division has met with the Head of the Primary Division and its Head of Teaching and Learning with the aim of putting systems into place to ensure better teacher to teacher collaboration. (0301-06) 今年度、EP との連携を強化することを目的とした「トランジションリーダー」という役割を新設し、EP の責任者と複数回のミーティングを実施した。また、教育部長 (IB 担当) は、Primary 教育部長および EP の指導・学習の責任者である教務主任とミーティングを実施し、教員間の協力体制を強化するための仕組み作りに取り組んでいる。(0301-06) ●The IB has joined Tamagawa University in an Action Research Initiative which has seen Quincy Kameda present to the staff and a number of teachers working with him throughout the year. (0301-05) 玉川大学大学院教育学研究科とアクション・リサーチ・イニシアティブを構築し、教育学研究科の亀田クインシー氏が IB Division の教職員に向けて講義を行い、共に年間を通じて研究に取り組んでいる。(0301-05)	【教育部長 (IB 担当)】 ●In order to improve collaboration linked to teacher's goals, the IB Division will introduce a Teacher Trios initiative for April 2025. The aim is for teachers with similar goals and needs to collaborate through lesson observations and feedback. (0301-05) 教員の目標に関連した協力体制を向上させるため、IB では 2025 年 4 月に「ティーチャートリオ」の取り組みを導入する。この取り組みは、共通の目標やニーズを持つ教員同士が 3 人一組となり、授業観察やフィードバックを通じて学びあうことを目的としている。(0301-05) ●To work with the EP Division to create a student profile for Grade 5 students who will join the IB, with the aim of advising IB teachers on each student's strengths and areas of need. (0301-06) EP と連携し、IB に進級する 5 年生の児童プロフィールを作成する。これにより、IB 教員に対して各児童の強みや改善が必要な点について、指導の参考にできることを目指している。(0301-06)
	【アカデミックサポートセンター長】 ●電子図書館の導入から 3 年が経過した。導入目的がコロナ禍の影響から読書環境の維持と読書量の少ない生徒に向けた対応であったが、利用状況の把握と分析で今後の利用方針を検討する。(0301-01) ●ES で実施している SH と講座はその全てが全人教育の理念に反映し、利用した全ての園児・児童・生徒が最大の可能性を発揮できる場として計画し実施する。そのため ES スタッフ、SH 教員、委託業者、派遣講師等で定期的な話し合いを行う。(0301-06)	【アカデミックサポートセンター長】 ●電子図書館の認知度の広がりから利用者数は年々増加傾向にあるが、利用状況の細かい分析までは至っていない。今年度開始した読書調査の結果から、デジタル媒体の有効性も分かり、今後の選書も含め引き続き検討する。(0301-01) ●ES 連絡協議会や ES 委員会等の場を利用して、ES 関係者に対し延長教育プログラムの趣旨と今後の展望を説明するとともに、意見交換も活発に行い共通理解を深めた。(0301-06)	【アカデミックサポートセンター長】 ●ES の講座では、国際文化交流を通じて個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実されているプログラムの開発を検討する。(0301-04) ●語彙力や読解力の定着、探究心の向上を目指し作成した MMRC 活動計画書に基づき、学齢ごとの推奨図書を選定や探究イベントについて各ディビジョンと検討する。(0301-02)

文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures	【国際教育センター副センター長】 ●K-12 受入プログラムとして、各ディビジョンの協力により授業参観および授業体験の時間枠確保から、学びと体験を深める多様な国際教育活動の計画を継続的に進める。(0301-01) ●学内での日本文化体験プログラム運用に向け、K-12・大学・学外の教員・講師との調整と依頼を年間通して随時行う。(0301-01) ●K-12 オンラインとして各教科、特別活動で国際教育を行っている活動を調査し、学齢に応じたカリキュラムを模索する。(0301-04)	【国際教育センター副センター長】 ●幼稚園、Primary Division(1-5)の授業参観、授業体験での交流は相互メリットのある国際交流活動として実施することができた。(0301-01) ●K-12・大学・学外の教員・講師等による日本文化体験プログラムを効果的に運用することができた。(0301-01) ●コロナ禍の状況から変化し、対面での国際交流プログラムが活発となり、オンラインでのプログラムについての検討は進めることができなかった。(0301-04)	【国際教育センター副センター長】 ●K-12 受入プログラムとして、各ディビジョンでの授業参観および授業体験の時間枠を確保し、学びと体験を深める多様な国際教育活動の計画を継続的に進める。(0301-01) ●学内での日本文化体験プログラム運用に向け、K-12・大学・学外の教員・講師との調整と依頼を行う。(0301-01) ●各教科や特別活動での国際教育、オンラインでの交流活動など、国内で実施可能な国際理解教育について検討し、学齢に応じたカリキュラムを模索する。(0301-04)
	【教務委員長】 ●ICT の活用授業など、将来必要な資質能力を身に付けさせるためのカリキュラムや評価の方法などについて検討を行う。(0301-06)	【教務委員長】 ●各教科、ICT 活用授業を推進し、どのようにカリキュラムに組み込むかの検討を行った。(0301-06)	【教務委員長】 ●全人教育の理念に基づき、各教科、協働学習を活用したプロジェクト型学習ができないかを検討し、児童生徒の問題解決力とコミュニケーション能力の育成を図るよう推進する。(0301-06)
	【学務委員長】 ●新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、with コロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育、特に、宿泊行事を児童・生徒の発達に即した形で実施できるように検討を重ねる。(0301-02)	【学務委員長】 ●新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、with コロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育を児童生徒の発達に応じた形で見直しを図った。(0301-02) ●創立 95 周年玉川の集いを幼稚園から大学生までが参加し、「歌声は力、合唱は労作」をコンセプトにして実施することができた。	【学務委員長】 ●新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、with コロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育、特に、宿泊行事を児童生徒の発達に即した形で実施できるように検討を重ねる。(0301-02)
	【生活委員長】 ●各ディビジョンの中で各種規程の確認をし、社会情勢等を鑑みながら学齢に応じた服装規程の検討を継続的に進める。(0301-02) ●クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針の検討を進め、クラブ体制を再構築する。(0301-01)	【生活委員長】 ●服装規程・登下校時間・表彰規程の規程改定を行い、新しい生活様式に則した内容とし、「生活の手引き」の記載内容に修正を加えた。(0301-02) ●クラブ活動の在り方に関して、加入状況と活動実績、顧問・外来コーチ等の指導体制を照合し、今後のクラブ体制の再構築に向けて、検証と検討を進めた。(0301-01)	【生活委員長】 ●各ディビジョンで各種規程の確認をし、社会情勢等を鑑みながら学齢に応じた規程内容の検証を継続的に進める。(0301-02) ●クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針の検討を進め、クラブ体制を再構築する。(0301-01)
	【管理運営部門（教育情報・企画部）】 ●リニューアルした総合サイト、K-12 サイトトップ、K-12 配下ページの安定稼働とコンテンツの充実に注力する。さらに深い理解や関連した他の項目にも関心を寄せてもらう様に適切な掲載タイミング、掲載場所、内容、レイアウト、変遷先を考慮し更新する。(0301-06) ●K-12 パンフレットへの QR コード掲載にも的確な誘導先やパンフレット誌面との連動性をさらに高める。(0301-06)	【管理運営部門（教育情報・企画部）】 ●総合サイト、K-12 サイトトップ、K-12 配下ページの安定した情報提供ができるよう適切な管理を行った。「本学の理念・方針に基づいた教育実践の展開」を促がせるようコンテンツのスムーズな更新依頼に対応し、また K-12 のニュース等の適時配信を行った。 ●K-12 パンフレットから QR コードを利用し、適切なサイトへの誘導を図り、紙面を補う形でのコンテンツ充実を図った。(0301-06)	【管理運営部門（教育情報・企画部）】 ●総合サイト、K-12 サイトトップ、K-12 配下ページについて、「本学の理念・方針に基づいた教育実践の展開」を行えるよう、学園入試広報課とも連携し、コンテンツの充実を図る。 ●K-12 パンフレットの紙面の情報を補う形でのサイト誘導についても、充実したコンテンツ提供を行うため、学園入試広報課との連携を密にし、過不足なく展開していく。(0301-06)

評価規準	2024 年度の課題・重点施策	2024 年度自己評価	
		2024 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2025 年度の課題と改善方法（2025 年度の課題・重点施策）
学習 (04)：効果的な教育の保証 Learning (04)：Ensuring effective education 規準(0401)：一貫したカリキュラムのデザイン Standard(0401)：Designing a coherent curriculum 0 4 0 1－0 1 学校は、プログラムが実施される全学年にわたり、学習と指導を体系化する一貫したカリキュラムを計画し、実施すること。 0 4 0 1－0 2 教師は、協働して学校のプログラムをデザイン、計画、実施すること。 0 4 0 1－0 3 学校は、学校コミュニティーを明確に参加させるような方法でカリキュラムを開発し、定期的に見直し、共有すること。【K-16 連携を意識】 規準(0402)：生涯学習者としての生徒 Standard(0402)：Students as lifelong learners 0 4 0 2－0 1 生徒は、活発に思考、研究し、コミュニケーションをとり、社会的、および自己管理のスキルを発達させること。 0 4 0 2－0 2 生徒は、「教育の 12 信条」「IB の学習者像」の人物像に沿った継続的な発展を実証し、振り返りを行うこと。 0 4 0 2－0 3 生徒は、健全な人間関係、責任の共有および効果的に協働することの大切さについて理解し、発展させること。 0 4 0 2－0 4 生徒は、情報、論理、および倫理に基づいて判断を行う能力を向上させること。 0 4 0 2－0 5 生徒は、より広いコミュニティーと社会全般に肯定的な変化をもたらすのに必要な柔軟性、忍耐力、および自信を育むこと。 0 4 0 2－0 6 生徒は、チャレンジに満ちた目標を設定し、独自の探究を突き詰めることで、自身の学習に責任をもって取り組むこと。 0 4 0 2－0 7 生徒は、個人的な、また文化的なアイデンティティを模索し、発展させる機会を追求すること。	【学園教学部長】 ● K-16 連携プログラム、企業等との連携プログラムを積極的に開拓し、各ディビジョンでの実施に向けてサポート体制を強化する。(0401-03) ● STEAM 教育、探究型学習の充実を図る。Edtech の推進、探究型学習（自由研究）の充実、プログラミング学習の体系化に向けて、各ディビジョンのサポートを行う。(0401-01,02,03,04) ● K-12 全体の評価方針を継続検討する。IB の評価方法を参考にしながら、玉川学園の園児・児童・生徒のよりよい成長に繋がる評価方法を探る。(0404-01,02,03,04)	【学園教学部長】 ● K-16 連携プログラム、企業等との連携プログラムを積極的に開拓し、各ディビジョンでの実施に向けてサポート体制を強化する。(0401-03) ● STEAM 教育、探究型学習の充実を図る。Edtech の推進、探究型学習（自由研究）の充実、プログラミング学習の体系化に向けて、各ディビジョンのサポートを行う。(0401-01,02,03,04) ● K-12 全体の評価方針を継続検討する。IB の評価方法を参考にしながら、玉川学園の園児・児童・生徒のよりよい成長に繋がる評価方法を探る。(0404-01,02,03,04)	【学園教学部長】 ● 大学との連携、及び、企業等の連携プログラムの実施に際して、そのサポートを行う事ができた。(0401-03) ● SSH の管理運営部門として、現場と協力し、SSH 活動が円滑に進められるようにサポートすることができた。(0401-01,02,03,04) ● 評価に関する検討は、今年度はあまり進んでいない。園児・児童・生徒のよりよい成長に繋がる、玉川学園ならではの評価の在り方を、新カリキュラムを見据え検討を続ける。(0404-01,02,03,04)
	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 小学校への接続を意識して設定した年長後期「チャレンジプログラム」の更新、幼稚部 3 ヶ年の「学びのプログラム」の体系化を図る。さらに、個性や主体性を伸ばす「自発的な遊びの時間」の環境設定について、各学年で計画や振り返りを行う。(0401-01,0402-06) ● 保護者が一緒に関わる活動として、MMRC、スターレックドームとの連携活動を継続する。(0401-02,03) ● 個々の成長を捉え促進するためのポートフォリオ作成に関して、教員研修を継続する。(0404-02)	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 年長後期の接続プログラム「チャレンジプログラム」の中で、TAP 活動（年間 4 回）、ムーブメント活動「Global Workshop」（3 回）、プログラミング活動（3 回）を継続し、非認知的能力、表現力、思考力の育成を試みた。(0401-01,0402-06) ● 1 学期にスターレックドーム利用「プラネタリウム親子鑑賞会」3 学期には MMRC と連携して「ぬいぐるみおとまり会」を実施した。(0401-02,03) ● K-12 学内研修会での公開保育に際し、配付資料の一つとしてドキュメント方式での教育活動紹介（遊び図）を作成した。(0404-02)	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 小学校への接続を意識して設定した年長後期「チャレンジプログラム」の更新・改善を図りつつ、活動内容の整理（活動一覧の作成）を行う。また、個性や主体性を伸ばす「自発的な遊びの時間」の環境設定について計画や振り返りを行い、「個性尊重」「自学習律」につながるよう活動の意図を深める。(0401-01,0402-06) ● 保護者が一緒に関わる活動として、MMRC、スターレックドームとの連携活動を継続する。(0401-02,03) ● 個々の成長を捉え促進するためのポートフォリオ作成に関して、教員研修を継続する。(0404-02)
	【教育部長（K-5 担当）】 ● K-12 の連携の中で、BLES 英語カリキュラムの見直しとともに 5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの構築を目指し、継続的に英語力の向上に取り組む。(0401-01) ● 新しく用いた、Pearson Primary Benchmark テストの結果を検証し、英語力の向上に繋げられるようにする。(0401-01) ● 「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、教職員及び児童が常に意識し、日々の学習活動に取り組むようにする。(0402-02) ● 3～5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムに統計の要素を盛り込み、フィールドワークを実施し、プログラミング的思考力の育成、探究的な学習の推進を図ることを継続していく。(0403-02) ● オンライン参加が続く児童の成績評価に関しては教科毎で検討を継続することでブラッシュアップを図っていく。(0404-01,03)	【教育部長（K-5 担当）】 ● K-12 の連携の中で、EP クラスのカリキュラムも参考にし、5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの見直しを図ることができた。(0401-01) ● 今年度は Pearson Primary Benchmark テストを用いて英語力の測定を JP5 年生、EP1～5 年生で実施予定。(0401-01) ● 「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、具体的な目標を立てて取り組んだ。(0402-02) ● 3～5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築し、プログラミング的思考力育成目的のキュベットの活動（1、2 年生の全クラス対象）を計画通り実施することができた。(0403-02) ● オンラインによる授業参加が継続化した児童はほとんど見られなかったが、今後も成績評価に関しては教科毎で検討を継続しブラッシュアップを図っていく。(0404-01,03)	【教育部長（K-5 担当）】 ● K-12 の連携の中で、BLES 英語カリキュラムの見直しとともに 5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの構築を目指し、継続的に英語力の向上に取り組む。(0401-01) ● 新しく用いた、Pearson Primary Benchmark テストの結果を検証し、英語力の向上に繋げられるようにする。(0401-01) ● 「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、教職員及び児童が常に意識し、日々の学習活動に取り組むようにする。(0402-02) ● 3～5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムに統計の要素を盛り込み、フィールドワークを実施し、プログラミング的思考力の育成、探究的な学習の推進を図ることを継続していく。(0403-02) ● オンライン参加が続く児童の成績評価に関しては教科毎で検討を継続することでブラッシュアップを図っていく。(0404-01,03)
	【教育部長（6-12 担当）】 ● 高校の情報に繋がるカリキュラムについてプログラミング思考や情報スキル、情報リテラシーなど考慮して構築する。(0401-01) ● 町田市との地域貢献や地域連携の活動を模索する。(0402-01,05) ● 自由研究の更なる活性化の方法を模索する。(0403-01,03) ● 2024 年度は高等学校学習指導要領の完成年度であるので、学習意欲の向上や資質・能力の育成につながる評価のあり方について引き続き検討する。(0404-02)	【教育部長（6-12 担当）】 ● 高校の情報に繋がるカリキュラムについて、今年度のカリキュラムを行いながら検討することができた。(0401-01) ● 町田市との地域貢献や地域連携の活動について実施できた。(0402-01,05) ● 自由研究の活性化の方法を模索することができた。(0403-01,03) ● 各教科、学習意欲の向上や資質・能力の育成につながる評価のあり方について検討することができた。(0404-02)	【教育部長（6-12 担当）】 ● 情報に関して、一貫的なプログラムになっているか検討し、構築する。(0401-01) ● 引き続き、町田市との地域貢献や地域連携の活動を実施する。(0402-01,05) ● 自由研究の更なる活性化の方法を模索する。(0403-01,03) ● 玉川学園 K-12 生徒相談室と連携して、心の健康づくり、健全な人間関係の構築、他社理解などを目的とした心の授業を各学年行い、心身の健やかな成長を育む。(0402-03,05)

規準(0403)：指導のアプローチ Standard(0403)：Approaches to teaching 0403-01 教師は、生徒の自然な好奇心を培うために、探究・行動・振り返りを用いること。 0403-02 教師は、生徒の思考力を高めるために概念理解の学習に重点を置くこと。 0403-03 教師は、カリキュラムの関連性（教科横断、学年縦断）をもたせるために、地域およびグローバルな文脈を用いること。 0403-04 教師は、肯定感があり、躍動感のある学習環境を創造するために、効果的な人間関係の構築と意義のある協働を促進すること。 0403-05 教師は、生徒一人ひとりがやりがいのある独自の学習目標を立て、それを追求し達成できるように学習への障壁を取り除くこと。	【教育部長（IB 担当）】 ● Investigate ways to ensure that the IBDP Programme timetable can fit into a seven period school day with the aim of implementing it from April 2025. (0401-01,02) IBDP のプログラムを 1 日 7 時間授業の中で実施する時間割設定の方法を検討し、2025 年 4 月の導入を目指す。(0401-01,02) ● Train staff through collaborative workshops to ensure there is a programme-wide understanding of the International Baccalaureate’s Approaches to Teaching, paying close attention to inquiry based learning. (0403-01) コラボレーションの伴うワークショップを通じて、特に探究型学習に着目し、IB における教え方へのアプローチのより深い理解を行なう。(0403-01) ● To modify our MYP assessment procedures to both ensure the demands of the programme are met and that students and staff can uphold a sustainable work-life balance. (0404-02,03) MYP のアセスメント（評価課題）の実施方法を変更し、プログラムの要求を満たしつつ、児童・生徒と教員が持続可能なワークライフバランスを維持できるようにする。(0404-02,03) ● To embed the new EAL Teaching Assistant role across the Division to ensure extra support inside and outside of the classroom for our EAL learners in most need of extra assistance. (0403-05) 特別な支援を最も必要とする EAL 学習者のために、教室内外での特別なサポートを確保するため、EAL ティーチャングアシスタントの役割をディビジョン全体に定着させる。(0403-05)	【教育部長（IB 担当）】 ● Period 8 has been taken away from the Diploma Programme in order to help students’ and teachers’ self-management and mental health. The Leadership team has worked to add Diploma Programme lessons into gaps in the school calendar to ensure that students will still receive enough classes. The IB Division now changes days on the weekly timetable to ensure that no day of the week is hit overly hard due to national holidays. (0401-01,02) DP では、生徒と教員の自己管理やメンタルヘルスを保つために、8 時間目の授業を廃止した。生徒が必要な授業を受けられるように、日課の中で空いている時間に DP の授業を組み込むようにした。また祝日による特定の授業の時間数への影響を考慮し、時間割で曜日の設定を変更し、授業時間数を確保している。(0401-01,02) ● The IB has incorporated two staff training days onto the school calendar. These days have included workshops on differentiation, meeting the needs of the more able, behaviour management and supporting EAL students. (0403-01,0404-02,03) 年間行事計画に教員研修日を 2 日間取り入れた。研修では、指導の差別化、また能力の高い児童生徒への対応、生活指導、EAL（英語学習）の生徒支援に関するワークショップを実施した。(0403-01,0404-02,03) ● To recruit EAL teaching assistants to ensure extra support for students inside and outside of the classroom for next year. (0403-05) 次年度にむけて EAL ティーチャングアシスタントを新規採用することとし、教室内外での児童生徒のサポートをさらに強化する。(0403-05)	【教育部長（IB 担当）】 ● To create a sustainable yearly calendar for the Diploma Programme ensuring a balance between the needs of the curriculum and the students’ work life balance. The calendar will be used as a basis for future year groups. (0403-05) DP のために、カリキュラムのニーズと生徒のワークライフバランスの両立を考慮した、持続可能な年間計画を作成する。この計画は、今後の年間計画の基本として引き継いでいく。(0403-05) ● To work with the IB networks to create training days that incorporate staff from other IB schools in Japan. (0403-03,04) IB 校ネットワークと連携し、日本の他の IB 校の教員との合同研修を計画する。(0403-03,04) ● To work with staff to merge assessment criteria with the aim of reducing the number of assessments per term. To continue to strengthen the assessment policy to ensure.. (0404-01,02,04) 評価基準の統合に取り組み、学期ごとの評価課題（アセスメント）を減らすことを目指す。また、アセスメントポリシーを引き続き強化し、確実に効果的な評価が行われるようにする。(0404-01,02,04) ● To employ and train EAL teaching assistants to ensure extra support for students inside and outside of the classroom. (0403-05) EAL（英語学習支援）ティーチャングアシスタントを雇用および養成し、授業内外での児童生徒へのきめ細やかなサポートを提供する。(0403-05)	
	規準(0404)：評価方法 Standard(0404)：Approaches to assessment 0404-01 生徒と教師は、学習、指導、および評価を向上させるためにフィードバックを行うこと。 0404-02 学校は、カリキュラムおよび規定された学習結果と目標に見合うさまざまな評価方法を用いること。 0404-03 学校は、公正でインクルーシブに、かつ一貫性と透明性をもって評価を実施すること。 0404-04 生徒は、学習したことを定着させる機会として評価を利用すること。	【アカデミックサポートセンター長】 ● 2024 年度に完成年度を迎える 6～12 年生対象の SH では、児童・生徒個々にとって更に効率的で最適な学びの環境を提供する。学習データの利活用を積極的に進めるための環境について、関係部署や委員会等で検討を開始する。(0401-02) ● 各ディビジョンで実施している探究活動については、MMRC が K-12 として系統立てて作られた思考力育成の活動となるよう支援体制とカリキュラムを検討する。(0403-02)	【アカデミックサポートセンター長】 ● 2024 年度は SH に初めて 12 年生が在籍した。蓄積された学習データをもとに、生徒一人ひとりに面談を定期的実施したことで進路選択に役立ち、SH の理想的なモデルを構築することができた。(0401-02) ● ディビジョン毎に支援している探究活動のカリキュラムを再構築した他、読書活動の支援カリキュラムについても同様に検討した。(0403-02)	【アカデミックサポートセンター長】 ● 1～5 年生対象の SH では、SH 教員の指導内容や教材のあり方、きめ細かな指導が可能となる学習環境づくりについて検討をする。(0401-02) ● 生涯にわたり学び続ける基盤として読書教育の充実を図るため、MMRC が拠点となり学校図書館における学習カリキュラムについて検討を開始する。(0403-03)
		【国際教育センター副センター長】 ● 国際教育センターとして K-16 の一貫性のある国際教育プログラムの検討を継続的に行う。(0401-01) ● 大学・K-12 の国際担当と連携を深め、各学部・各ディビジョンでの国際教育プログラム計画を確認し、事前準備等のサポート体制を整える。(0401-04) ● 受入時のホストファミリー及び学内ホストを確保する方策と体制を継続検討する。(0403-05) ● BEVI(海外留学プログラム効果測定)を継続実施する。(0401-01)	【国際教育センター副センター長】 ● 国際教育センターとして K-16 間で情報共有に務め、一貫性のある国際交流プログラムの構築を検討中である。(0401-01) ● 受け入れホストの範囲を K-12 全体に広げたことで、ホストファミリーの確保ができた。今後も学齢に拘らず、ホストファミリーを募集していく。(0403-05) ● 昨年度末の検討を受け、BEVI による効果測定は実施を見送った。(0401-01)	【国際教育センター副センター長】 ● K-16 の一貫性のある国際教育プログラムの検討を継続的に行う。(0401-01) ● 大学・K-12 の国際担当と連携を深め、各学部・各ディビジョンでの国際教育プログラム計画を確認し、事前準備等のサポート体制を整える。(0401-04) ● 海外研修、留学プログラムに参加した生徒を対象としたアンケート調査を継続実施し、プログラムの改善に繋げていく。(0402,0404)
		【教務委員長】 ● 2024 年度は段階的に実施されている高等学校学習指導要領が完成年であるので、K-12 一貫カリキュラムについて再確認を行う。(0401-01) ● 各教科や自由研究などにおいて、横断的で、思考力や知的好奇心を育むカリキュラムになっているか検討を行う。(0403-01,02,03)	【教務委員長】 ● 高等学校学習指導要領の完成をふまえて、K-12 一貫カリキュラムについて検討できた。(0401-01) ● 各教科や自由研究などにおいて、横断的で、思考力や知的好奇心を育むカリキュラムについて検討ができた。(0403-01,02,03)	【教務委員長】 ● K-16、地域との連携したカリキュラムをさらに発展できるように検討を行う。(0401-01,02,03) ● 児童・生徒の興味・関心や学習進度に応じた柔軟な学習環境の整備し、個に応じた学びがどのようにできるか、指導・支援体制を検討する (0403-01,05)
	【生活委員長】 ● 「心の教育」として礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、学齢に応じた運用と形態の継続検討を進める。(0401-01) ● ICT を活用した教育活動での教材を積極的に取り入れ、充実していく。(0401-03)	【生活委員長】 ● 「心の教育」として礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、学齢に応じた運用と形態の継続検討を進めた。(0401-01) ● 児童・生徒が使用している奨励機種 of 妥当性を検証し、次年度以降の運用に関して、MyPC スペックの変更を決定した。(0401-03)	【生活委員長】 ● 「心の教育」として礼拝・道徳・HR・TAP・カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、学齢に応じた運用と形態の検討を継続して進める。(0401-01) ● ICT を活用した教育活動を積極的に取り入れる事により発生する様々な課題を検証し、それらの対応について検討を進める。(0401-03)	